

5 文や文章の中で読ませる指導について (2年)

<p style="text-align: right;">【板書事項】</p> <p>一 図工室で 図画を かく。</p> <p>二 兄が 上京する。</p> <p>三 朝会で 校長先生の 話を 聞く。</p> <p>四 海水よくに 行く。</p>	<p>【指導の流れ】</p> <p>1 一と二の文を板書し、読み方を考えさせる。</p> <p>「この文を読んでみましょう。」</p> <p>Ｃ「すこしずつでかか。」</p> <p>Ｃ「あにがじょうきようする。」</p> <p>「教科書で習った読み方を使うと、教科書で習っていない言葉も読むことができます。」</p> <p>2 三と四の文を板書し、読み方を考えさせる。</p> <p>「この中には、教科書で習ったことのない読み方の漢字があります。読んでみましょう。」</p> <p>Ｃ「ちようかいでこうちようせんせいのはなしをきく。」</p> <p>Ｃ「かいすいよくにいく。」</p> <p>「朝会はあさの会と考えると読むことができます。海水はうみの水と考えると読むことができます。」</p> <p>3 教科書に出てこない言葉の読み方をまとめる。</p> <p>「教わった読み方を使うと、初めて見た言葉も読むことができます。また、漢字の意味を考えると、読み方を知らない言葉も読むことができます。」</p>	<p>【留意点】</p> <p>1 黙読しながら待つように働き掛ける。「心の中で読みながら待ちましょう」。一と二の文は、読み方は既習であるが、既習の教材文中では未出の言葉を用いる。正しく読めない場合には、教師側から読み方を教え、教科書のどこで習った読み方であるかを知らせる。</p> <p>2 1と同様に黙読しながら待つように働き掛ける。この文に用いる漢字は既習であるが、読み方は未習であるものを用いる。漢字が使われる言葉は、児童の身近なものとし、意味から読み方を推測できるものとする。</p> <p>読み方を答えた児童には、どうしてそう考えたのかを話させ、意味と読み方のつながりをとらえさせる。</p> <p>3 教科書で未出の言葉の読み方を上記の二点でまとめる。1と2の読み方の練習問題を行ってもよい。読書活動につなげていくのもよい。</p>
--	---	--